

様式第8号（第5条関係）

(その1)



28年4月20日

十和田市議会議長

工藤正廣 様

会派名

経理責任者

日本共産党
舛甚英文

平成27年度政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、
別紙のとおり 27 年度政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

年度政務活動費收支報告書

会派名 日本共産党

1 収 入

政務活動費 360,000円

2 支 出

(単位:円)

科 目	金 頓	備 考
調査研究費	261,890	
研修費	28,400	
広報費	37,800	
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費	14,664	
資料購入費	105,948	
人件費		
事務所費		
合 計	448,702	

3 残 額 0円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党
-----	-------

活動議員名（取扱議員名）

舛 甚 英 文

区分				合計金額
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	
9 人件費	10 事務所費		※該当する区分に○印	45,750円
期間 (年月日)	H27年 7月13日 ~ H27年 7月14日 (1泊 2日)			
支出目的 (支出理由)	視察、研修（庁舎新築にかかる）			
用務先 (支払先)	福島県喜多方市、田村市			
内容及び成果	別紙のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

研修報告書

日時 2015年7月13～14日

場所 福島県喜多方市、田村市

案件 十和田市議会新庁舎建設にかかる先進地の視察・調査

【I】喜多方市 7月13日（月）14：00～16：00

平成18年1月に1市2町2村の5市町村が合併した。平成17年に56000余の人口が平成26年には49000人余と7000人ほどが減少している。

1、建設の経緯

- ① 議会地区別委員会で平成24年1月から9月まで議員10名で15回の会議をまつてきた。
- ② パブリックコメントと6回の市民説明会を開催した。
- ③ 設置場所については、懇話会での話もあり、現在地が地域的に中心ということで、落ち着いた。
- ④ 市民懇話会を4月から11月に開催。設計プロポーザルは5社が参加。基本設計について市民ワークショップを6回開催。
- ⑤ 交通について、高齢者はデマンドタクシー、自転車、バスは会津若松市との間にあらだけ。自家用車が多く、120台分の駐車場（1・5倍）を確保した。職員専用駐車場を近くに4か所借用・確保している。
- ⑥ 田んぼの中に広々とした空間を確保して、新たな設置場所となっている。
- ⑦ 平成27年度から供用開始している。

2、視察の感想・・・議場について

- ① 平面図が8角形の半分のような形であり、従来の役所庁舎形態から見ると、一風変わったものといえる。
- ② 通風や採光には自然力を使ったものとなり、良いと思われる。
- ③ 議場については、大いに異論あり。議員席が扇形で広すぎる。発言席があったのは良い。図書室は貧弱であった。
- ④ 傍聴席の椅子・・後ろのスペースが小さいこと、カメラに映らない議場ができる。
- ⑤ 記録室（事務局）から議場が見渡せない。
- ⑥ 喫煙席は外部の敷地に用意されており、構内にはなし。
- ⑦ 議場のこともあるが、市民が一番利用しやすい市庁舎を目指すべきであり、そのためにも市民との意見交換会を数多く行うべきであろうかと思った。

【II】田村市 7月14日（火）10：00～12：00

平成17年3月に5町村が合併して、田村市が新設された。平成27年4月、人口約37000余人で3年前に比して3000人弱減少している。新市役所は平成26年12月、交通の一番便利な旧船引町の磐越東線船引駅近くに新築移転した。庁舎の特徴は、入り口に市民ホールがあり、緊急時の避難場所にもなることであろう。

1、建設のイメージ

- ① 人にやさしい安全・安心な庁舎：災害に強い構造の建物・・・免震構造
- ② 機能性・効率性重視のスリムな庁舎・・・中央に吹き抜けを、庁舎全周にメンテナンスバルコニーの設置で清掃等の維持管理が容易に・・・
- ③ 市民に親しまれる庁舎
- ④ 環境にやさしく、周辺環境との調和した庁舎・・・自然採光、自然換気、太陽光の活用（発電）、IT化（OAフロア）等々

2、視察の感想

- ① 中央に吹き抜けがあり、採光上は良い。半面、会議室等が不足との声あり。
- ② 議会に関係する会議室などは全て同一の階に集められていること。（これは喜多方でも同様）
- ③ 図書室が余りに小さかった。
- ④ 駐車場が狭くてこれからも大変であろうと推察された。場所の関係でどうにもならなかったという。（JTの跡地で論議あり）
- ⑤ 議会傍聴室は位置が低く良かったと思う。傍聴室へエレベーターで近くまで来られることが良かった。傍聴室には車椅子も可能な場所あり。議場にも可能な場所があったようです。
- ⑥ 全体としては、喜多方市よりは良かったと思われる。
- ⑦ 検討会では中学生の意見も取り入れたと言いますので、市民の声を大切にしましょう。

以上

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党			
活動議員名（取扱議員名）				
舛 甚 英 文				
区分				合計金額
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	1 4 6 , 8 1 0 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
期間 (年月日)	H27年 7月27日 ~H27年 7月29日 (2泊 3日)			
支出目的 (支出理由)	(日置市) 原発周辺市としての防災計画、避難計画 (玉名市) 新庁舎建設について視察、研修			
用務先 (支払先)	鹿児島県日置市、熊本県玉名市			
内容及び成果	別紙のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

政務活動報告書

日本共産党 幸甚英文

1、日時 平成27年7月27日～29日

2、研修視察場所 鹿児島県・日置市、熊本県・玉名市

3、調査・視察目的

① 日置市は平成17年に4町村が合併して日置市として新たに市制施行された都市であるが、薩摩川内市に設置されている原子力発電所から30km圏内に入る地域もある。視察当時はもっとも古い原発のため停止中であったが、再稼働を目指して8月ごろから準備をする予定と聞いている。

地域住民からは福島原発が地震と津波の影響で福島県だけでなく広範囲に放射能汚染が広がっていることから、東通村・六ヶ所村に設置されている原発および再処理工場が稼働することになれば、本市も六ヶ所再処理工場から30km圏内に及ぶことから、どのような対策を講じているか調査研究することとした。

② また、熊本県玉名市も平成17年10月に1市（玉名市）3町が合併して新しい玉名市が誕生した。当初から合併計画にあった新市役所庁舎が平成27年1月供用になったことから、当市の新庁舎建設設計画もあり、調査研究することとした。

4、調査結果と感想

① 鹿児島県日置市の原発対策：7月28日（火）9：30～11：00

川内原発は間もなく再稼働するという現状の中、まず鹿児島県の防災計画（原子力編）により、福島原発で見直された緊急時防護措置を準備する区域5km～30km圏内（UPZ）に11,255世帯、26,901人、日置市人口の52.9%が入る。このようなことからきめ細かな対策が計画されていた。例えば、ヨウ素安定剤配布、緊急被爆医療体制、モニタリングポスト設置は県全体で45か所されていた。また、原発災害の特殊性ともいべき外部被爆、内部被爆のことや放射線の強さ、放射性物質の拡散及び汚染の有無など自分で判断できない。このことから防災無線テレビ、ラジオなどから正確な情報に基づき、冷静沈着確実に行動することが要請されている。

以上のことから本市においては、東通原発から遠いこと、六ヶ所再処理工場はまだ稼働していないことから、まだ原子力災害編はできていないが、やがては必要になることなので、大いに参考になった。

② 玉名市の新庁舎について：7月28日（火）15：00～16：30

玉名市は合併して現在人口約68,000人（合併時72,000弱）です。有明海に面し、自然に豊かな地勢です。また、歴史的資源にも恵まれ

ている。藩祖、加藤清正公の治水と干拓事業により、米やミカンなど農産物や川などの水産物も盛んなようである。熊本市の北に位置し新幹線で10分の位置にあります。

玉名市庁舎建設は10年前の合併計画にも含まれており、当時総額60億円想定していたが、選挙戦などを経て最終的には約40億円以下で新築オープンした。

敷地は平坦地で鹿児島本線玉名駅、新幹線玉名駅の中央地点に整備され、近くには県の合同庁舎、博物館、市民会館なども設置されているところで、駐車場のスペースは余裕もあります。建物は地上4階、きわめてシンプルな上に、空間もあり、グレードの高い部分と低い部分とがあり、理想的なものでした。

本市での新庁舎は平成31年度までとなるが、駐車場の配置と台数を確保することと、現在の新庁舎との連携がスムースであること、市民にとって空間や窓に対応が十分であることを望みたい。

以上

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党			
活動議員名（取扱議員名）				
舛 甚 英 文				
区分				合計金額 69,330円
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費	4 広聴費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
期間 (年月日)	H28年 1月25日～H28年 1月26日（1泊2日）			
支出目的 (支出理由)	議会報告、議会改革の視察、研修			
用務先 (支払先)	長野県茅野市、静岡県焼津市			
内容及び成果	別紙のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

政務活動費による先進地視察報告書

この度、議会運営委員会での視察にかかわって、個人的に政務活動費を使い、行動と共にすることにしました。その視察結果について報告します。

I、日 時：1日目 平成28年1月25日（月）15：00～16：30

視察場所：長野県茅野市

視察目的：市民に対して、議会報告会を行い、意見交換会などを行っているということなので、このことについて当事者の生の声を聴くために訪問しました。

※視察結果の報告

- ① 人口5.5万人、一般会計232.7億円、議員定数18名（うち1期目の新議員は7人）
- ② 2改革の一環として「議会報告・意見交換会」を平成26年から実施している。
- ③ 平成27年2月：1ヶ所、5月：3ヶ所（同じ日に2ヶ所）、8月：3ヶ所
11月：4か所（同じ日に2ヶ所づつ）
- ④ 開催場所は、市のコミュニティセンターなど公的施設
- ⑤ 全体の参加者総数はで216人、1ヶ所は女性団体との懇談であったが、37人の参加であった。
- ⑥ 開催時にアンケートも実施していること。

※当市との違いは？

- ①開催回数が市内全域にわたっており、回数が非常に多いこと。これは地域の面積が狭いことにもよるものと思われます。
- ②女性団体だけとの「報告会・意見交換会」も要望に応えて、対応していること。
- ③参加者をグループに分けて話し合いをしていること（人数の多い会場で）。
- ④アンケートの実施。

※共通点は

- ①議会からの報告よりも市民は意見交換を望んでおり、市などへの要望など多く出されていること。この内容を行政側に伝え、議会での対応など当市での対応と同じような対応が見られました。

※市民の要望で・意見から当市でも学ぶ点について

- ①議会で問題になっていることなど、あらかじめテーマや議題を設定してほしい。
- ②参加者を増やす工夫が求められる。
- ③若者や女性の参加者を増やす工夫が求められる。

II、日 時：2日目 平成28年1月26日（火）14：00～16：00

視察場所：静岡県焼津市

視察目的：議会改革の取り組みとして、「焼津市議会基本条例」と「議員政治倫理条例」を制定している。その後の取り組み状況と課題について、調査をすること。

※視察結果の報告

- ①人口14,2万人、一般会計445億円、議員定数21人
- ②平成26年4月1日から、上記2つの条例を施行している。
- ③「まちづくり市民集会」大ワールドカフェ、として市内1か所で開催し、平成26年度は65人、平成27年度は12月に開催し、120人（議員全員も）が参加した。（議会報告会という形式ではない）

●話題提供と事例発表、みんなでワークショップを行い、市民同士の意見交換会を行っている。

※当市で学ぶべきことについて

- ①議会報告という形ではなく、市民集会ということで、市民同士の意見交換会に議員も参加することが求められている。
- ②個人としての政策提言は難しいかも知れないが、委員会での調査・学習調査しての政策提言は可能性が高まると思われる。

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党		
活動議員名（取扱議員名）			
舛 甚 英 文			
区分			合計金額 25,000円
1 調査研究費	② 研修費	3 広報費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	
9 人件費	10 事務所費	8 資料購入費	
期間 (年月日)	H27年 7月15日 ~ 年 月 日 (泊 1日)		
支出目的 (支出理由)	森林、林業、林産業活性化促進十和田市議會議員連盟による視察研修		
用務先 (支払先)	岩手県紫波町農林公社		
内容及び成果	別紙のとおり		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

林業活性化議連視察報告書

1、場所 岩手県紫波町農林公社

2、日時 2015年7月15日（水）9：30～12：00

3、視察結果

- ① 町役場は、紫波中央駅をつくることと合わせ新しい場所に木材をフルに活用したバイオマスプランのもとに建設されたものである。
- ② 木質バイオマス利用についての説明の後、エネルギーステーションを見学。ここでは、地域で熱水、冷水を供給し、冷暖房として利用している。木材のチップを燃料にしている。
- ③ チップの製造所を見学する。オーストラリアから輸入したチップ製造機（2000万円）を利用している。
- ④ 庁舎・議場の見学も行った。
 - 1) 傍聴席が議場の側面にありこれまでに例を見ないものであり、傍聴者から議員の顔が見えて大変良いとおもえた。
 - 2) 木造3階建庁舎であり、地元の材木をフルに利用しており、学ぶべきことであると思います。
 - 3) これまで視察してきた何処の庁舎も各部・課ごとの部屋ではなく、オープンなものとなっており、時に応じて広さをできるようになっているのが、特徴でした。

4、感想

わが十和田市も木質バイオマスを利活用して、森林資源を有効に生かしたいものである。

(その3)

政務活動報告書

会派名	日本共産党		
活動議員名（取扱議員名）			
舛 甚 英 文			
区分			合計金額 3,400円
1 調査研究費	② 研修費	3 広報費	
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	
9 人件費	10 事務所費	8 資料購入費	
期間 (年月日)	H28年 3月10日 ~ 年 月 日 (泊 1日)		
支出目的 (支出理由)	「電力自由化」自治体職員、地方議員合同セミナー		
用務先 (支払先)	青森市		
内容及び成果	別紙のとおり		

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

政務活動費 議会報告

- 1、案件 「電力自由化」セミナー
- 2、日時 2016年3月10日（木）13：00～15：00
- 3、場所 青森市 「ラ・プラス青い森」
- 4、主催 電力自由化支援機構株式会社 共催：株式会社 エネリンク
- 5、講演内容

- ① 電力システム改革と新電力 13：10～13：40
「自治体は新電力切り替えで100%電気料金の削減ができる」
- ② 全国自治体の新電力導入実例 13：50～14：10
- ③ エネリンクのE S P方式

6、講演の趣旨

- ① 2000年3月から、受電電力が20000Vを超える2000KW、6000V 50KWの大電力が自由に購入できるようになった。
- ② 2016年4月からは電圧や電力に無関係で、電力を購入自由になった。
- ③ 多くの新電力会社があるが、安定供給できること、環境にやさしい会社であるなど、わかりにくいところがある。
- ④ 安心できる新電力会社を案内しているのが、自社（株）「エネリンク」。
- ⑤ これまで自治体が別紙のように導入しているが、入札方式ではなく「随意契約」なのは、ただ安ければよいということになれば、「危険」が伴うことがある。
(日本ロジテックが破産)
- ⑥ 青森市でも2016年度から新電力会社から購入することになっているとのこと。青森市についての見積もりでは年間1000万円ほど電気料金が安くなるとのことです。

7、感想

- ① 太陽光発電など自治体はもっと多く装置を設置してもいいと思いました。
- ② 十和田市でも新電力会社からの購入などを検討してもいいのではないかと思いました。
- ③ 十和田市からも職員が研修に参加していたことは、うれしいことでした。

以上